

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@vj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2014年(平成26年)10月16日 木曜日

無料

第29号

毎月発行

創刊2014年(平成26年)10月16日 木曜日



大槌稲荷神社鳥居と計画盛土高さ表示



ガレキのなかを練り歩く山車

岩手・大槌は復興しているか？

厳しい現況から被災地は立ちあがる
報道されなくなった被災地の現況レポート
さい銭箱事件などよりもっと現地を見よ！

① ガレキのなかの大槌祭り

「真の絆」求め、復興への祈り込め
祭りがつなぐ神、家族、住民、地域

今回は
人に会いに行く

前回大槌町を訪問したのは
ちょうど2年前の9月16
日だった。

前回は人に会うのが目的
ではなく、被災地のガレキ
や道路等のインフラの状況
がどうなっているのかを現
地で確認するためだった。

そのため人に会うことは
二の次だったが、それにし
ても釜石はともかく、鶴住
居、大槌、吉里吉里、山田
とレンタカーで北上する過
程で車ですれ違うことはあ
っても人を見かけることが
なかった。津波で破壊され
たガレキのまちをただひた
すら写真を撮るだけのレン
タカーの旅は正直いってど



大槌祭りポスター

んどん辛くなっていた。
被災地を取材する側が辛
いなどと弱音を吐いてどう
すると思っただけ、確かに津
波の破壊の跡とたった一人

で対面するのは辛かった。
今度は違う。以前東京で
大震災と郷土芸能というテ
ーマで報告をされ、個別に
もお話をさせていただいた

向川原虎舞の岩間さん、ま
たは大槌復興食堂を運営さ
れていた岩間さんに大槌ま
つり訪問のお声がけをいた
だいたのである。したがっ
て今回の訪問は人に会いに
行く取材となった。

大槌まつり

向川原虎舞の奉納の舞の
時間に合わせ、遠野駅を出
発し、初めての山道を飛ば
した。何とか間に合った。
まずは大槌福幸きりり商店
街へ行き、その後すぐ近く
の奉納の場所に向かう。

あたりは人であふれてい
た。そこまでの道にはほ
んど人がいなかったが、
そこはものすごい熱気だ。
次々に虎舞やしし踊りの山
車が到着し、また出発する。
しかし、道路を行列する
山車について漁港の方に行
くと、景色は一変する。
ちょうど大槌稲荷神社の
下にさしかかったあたりで
は、空地にガレキが積み上
げられており、進入禁止の
赤いテープが張り巡らされ
ている。盛土の高さを表示
する大きな看板もある。

その脇を山車が行列す
る。何ともいえない感情が
湧き上がってくる。もう大
震災から3年半も過ぎ、被
災地以外では、予定より遅
れているとはいえ大分復興
が進んでいるとの情報があ
るといふのにこの状況であ
る。

ますます厳しい現地

岩間さんと少しお話しす

時間が取れた。短時間だ
ったが、現在の厳しい状況
が推察された。
大槌復興食堂は一旦閉
め、再開を予定していた
が、むずかしいというし、
岩間さんは近く富山へ働き
に行くという。もっと詳し
く聞きたかったが、短時間

ではとても切り出せない
し、また聞けなかった。(後
日、NHKのTV番組「明日
へ一歩あおろ」「夫婦
の味をもう一度」岩手県大
槌町・復興食堂ものがたり
」を見て事情がよく分か
った)
今後、三陸酒海鮮会等に



岩間ご夫妻 祭りの直前に重大な決断をして
いたが、そんな様子は微塵も見せなかった



向川原虎舞
状況が厳しくなるなかでの奉納



大槌漁港



大槌福幸きりり商店街

よる水産物仕入支援等の協力を約して別れた。時間が経過すればするほど、復興が進まずに被災地を苦しめているのが分かる。だからこそ、この夏祭りにエネルギーを注ぎ込むのだ。神さまに祈り、家族と

の絆、住民たちとの絆、地域との絆を強固に確認する作業のように感じられた。復興支援は各自が出来ることをやればよい、続けられよ。分りきつて行くことだ。でもやはり現地に行くと、それだけでは足りないと思えてくるのだ。



大槌漁港近辺 震災直後のまま

② 復興は開始されたばかり

そこには、3年半前と変わらない状況がある、かさ上げ土地にはいつになったら住めるのか？

復旧したのは大槌漁港の表側だけ

祭りの山車を追いかけて、大槌漁港まで行った。途中、ところどころ震災で破壊された痕跡が見えているが、それでも前回よりは半分復旧が進んだと思った。岸壁も歪んでいない。しかし、少し脇に入ると、そこは震災直後そのままだった。ショックだった。そこだけ時間が止まっていた。破壊された堤防が3年半前の津波を想起させる。何の支柱だったのか、鉄骨がグニャリと曲がったまま、

壊れたコンクリートから垂れ下がっている。道路の鉄の支柱も折れたまま放置されている。結局、「上辺」だけの復旧だった。大槌町役場も見た。大分取り壊されていた。賽銭箱事件だけが報道されているが、それだけが大槌の現実ではない。それはほんの一部にすぎない。大槌の人たちにとって、賽銭箱事件が取り上げられれば取り上げられるほど、実態と乖離した大槌のイメージが一人歩きする苦しみ味わうことになる。見て欲しいのは別



いつになったら完成するのか 大槌未来図



取り壊しが決まった大槌町役場

の大槌であると思う。旧町役場の脇には大槌町の未来図があったが、何かとても遠い未来の図に見える。前回は鵜住居に寄った。

二年後の今回と比べてみようと立ち、大槌から釜石経由で遠野に戻った。鵜住居町の両石湾の堤防はやはりこの二年で大きな変化はなかった。唯一の違いは、重機があったことくらいである。壊れたままの



土盛工事 釜石 いつになったら住めるか



鵜住居の破壊された堤防

堤防のコンクリートが大きくな傷口に見える。これが二年の復興作業の進捗状況である。何とも言葉が出ない。釜石方面に行く途中では盛土を運搬するたっさんのダンプを見かけた。かさ上

げ盛土も見たが、このかさ上げの上に建物が建つのはいつたいつになるのか考え込んでしまう。盛っただけの土が固まる時間が必要だと思いが、それは素人考えにすぎないのだろうか。



夜の神楽

「遠野まつり」参加も今年で3年連続3回目となった。そのため遠野に友人・知人もたくさん出来た。
今年の遠野祭りは、「遠野郷八幡宮」と市とが協力し

ての2日間開催だったが、残念ながら2日目は見れず、初日で帰ることになった。今年もまたこの神社の例大祭見物は実現しなかった。
9/20早朝、始発電車で

遠野際(9/20)

昼の祭りだけでなく夜の部も必見
闇の中に浮かぶ夜神楽は神秘的
遠野で多くの友人・知人たちに会う



南部ばやし

昨年までは日中の行列見物を中心だったが、夜の神楽は様相が一変する。あまりの印象の違いに驚いた。
にぎやかな日中の祭りにはない霊的な空気があたりに充満している。祭りは昼と夜とで一体であり、昨年までの屋だけの祭りしか見ていない自分がとてももったいないことをしていたのだと反省した今回だった。

午後3時過ぎに遠野駅に戻り、しし踊り大群舞と南部ばやしなどを見て、待ち合わせの藤原氏と合流し、夜の部の神楽を見た。

遠野に向かう。今回は、遠野でレンタカーに乗り換え、沿岸部の大槌まで祭りを見に行き、すぐ戻って遠野祭りをみるという強行軍であった。せつかく遠野まで来て、大槌に立ち寄らないのは残念だとの声が大槌の知人から寄せられたのだ。



夜の南部ばやし



神楽②



神楽①



昼の南部ばやし



南部ばやし山車



しし踊り

720年の蝦夷蜂起以来、前線基地を東ねる多賀城を支える山王遺跡は徐々に完成されていく。それほど蝦夷との激突が激しく、大量の兵士や役人が投入されて行く。そうして多賀城という行政府を支える巨大なまちとしての「山王遺跡」が出来上がったのだ。
セミナーで知的興奮を覚えるのは久しぶりだった。

セミナー受講まで、山王遺跡が東北古代史上どういう位置づけにあるのかよく分からなかった。このセミナーを聞き、多賀城とどうつながり、また8世紀の古代東北でどんな役割を持っていたのか次第に明らかになるにつれ、それまでぼんやりしたイメージしかなかった大和政権と東北蝦夷との攻防がますます立ちあがってくるのを感じた。

第五回 とにかく東北を語る会

9/21開催、あまりに刺激的な内容で、かつ盛り沢山で、一度で終わらず、次回に「後編」を開催予定(10/25開催)今度は発掘現場の見学も取り入れ、臨場感あるセミナー予定。討論会もあり。参加者募集。

第6回 とにかく東北を語る会 発掘現場見学会と討論会: 【山王遺跡の話 東北古代都市を歩こう】

日時 2014年10月25日(土)14:00から
場所 集合場所: JR陸前山王駅改札口を予定
見学場所: 「山王遺跡(八幡地区)」発掘調査現場
多賀城南宮 東北本線陸前山王遺跡から徒歩5分
*現地見学会終了後、交流会を兼ねた討論会予定

講師 齋藤和機氏

内容 山王遺跡は、弥生時代から中世にかけての遺跡でこれまでに多数の調査が行なわれた。遺跡の北側の丘の上に陸奥国府・多賀城がおかれた奈良・平安時代には、約100mごとの基盤の目状の道路で区画された町並みが広がっていたことが分かっている。このような都市が国府のすぐ近くに存在することは、古代史上非常に重要な意味を持っているといえる。きっと古代東北史にも大きな影響を与えることだろう。

他の参加者も同様であったらしく、1時間半を過ぎたあたりで、この一回だけで終わらせないとの意見が寄せられた。それで講師にはもう一回、10月25日に後編をお願いした。

今度は発掘現場を見学しながらのセミナーであり、さらに知的興奮は増すことだろう。蝦夷対大和政権、律令制度による支配浸透など東北古代史への興味はどんどん大きくなっていく。



ご参加いただいた面々



参加されたみなさま

**被災地・大槌情報共有
25名ご参加で大盛況
三陸酒海鮮会・渋谷(9/27)
日本橋は10/30開催予定**



地酒ラインアップ

9月27日(土)に第9回目の三陸酒海鮮会・渋谷が開催された。ほぼ1カ月半に一回のペースで継続してきたが、もう9回目を数える。今回は25名の参加で大盛況であった。若手主体でもあり元気いっぱいだった。開催にあたり、筆者が前週に訪問した岩手・大槌の状況もお知らせした。また、個別にお話しすると、多くの参加者が何らかの形で被災地への関わりを



参加されたみなさま

持っていることに驚き、またこの会を継続してきたことが良かったと思えた。ある参加者は9月14日開催の「ツールド東北」に参加したという。また別の参加者はマジックが得意だが、被災地に関連する何らかのイベントがあれば参加したいし、仲間も200名はいると教えてくれた。次回は11月15日予定。その前に、日本橋では10月30日に開催される予定。



参加されたみなさま



①【ゴロワタを使わない塩から】

第二回目レシピ
イカ料理②の作り方
二回目の今回は前回に続き2種類のイカ料理の作り方を紹介します。
見直される発酵食品として

水産業再興のための料理レシピ紹介

第二回目

【イカ料理 ②】

①【ゴロワタを使わない塩から】
切ったイカを塩で思いっきりもみます。
洗って水気を切ったら、軽く蒸した麴とピーマンで和えておきます。
麴の旨みが出て、ピーマンと良くあいます。

①【ゴロワタを使わない塩から】



②【ゴロワタを使った味噌とのとも和え】

②【ゴロワタを使った味噌とのとも和え】
鷹のツメも好みで入れるとよいでしょう。
こんな塩からも美味しいです。
ワタを包丁で軽く叩いて、



郷土料理愛好家 松本由美子氏

油で炒めます(生臭みをとると、コクがでます)
同じく鍋に味噌大1と1/2、砂糖大1、みりん小1、酒小1を入れて、イカを火を通して一緒に和えたら出来上がり。
(火を入れ過ぎて、イカが固くなり過ぎないようにします)



①ー蒸した麴とピーマンを和える



①ー塩もみしたイカ



①ー材料

観光振興から「東北は一つ」を その東北の最大の観光資源は?

東北各県の「魅力度」は中くらい?

「地域ブランド調査2014」の調査結果が10月6日に発表された。これはブランド総合研究所が毎年調査しているもので、今年で9回目である。

これをみると、「都道府県の魅力度ランキング」で上位にランクインしているのは、1位北海道、2位京都府、3位沖縄県、4位東京都、5位神奈川県、6位奈良県、7位福岡県、8位大阪府、9位長野県、10位長崎県である。1位から9位までは昨年と同じで、とりわけ北海道は魅力度ランキングに都道府県が加わってから6年連続で1位を譲り渡したことがない。

各市町村の魅力の発信を

同調査では、市区町村についても「魅力度」を調査している。その結果は1位函館市、2位札幌市、3位京都市、4位小樽市、5位横浜市、6位富良野市、7位神戸市、8位鎌倉市、9位金沢市、10位屋久島町である。

北海道からなんと4つの都市がランクインしている。また、都道府県ランキングで5位の神奈川県からも2つの都市がランクインしている。これらの道県では、魅力ある都市の存在が魅力ある道県のブランドにつながっていると見えるかもしれない。

対照的なのが東京都で、都としては4位ながら、市区町村では新宿区が辛うじて20位にランクインしているに過ぎない。東京は都全体としての魅力度が突出しているわけである。

私が東北の市町村はと言えば、上位100位までで見ると、仙台市が22位、青森の弘前市が49位、盛岡市が58位、山形の米沢市が99位である。こうして見てみると、ある程度分かることがある。東北の各都市の魅力度を高めていくことが、都道府県としての魅力度向上につながる。そのための情報発信が不可欠である。情報発信と言った漠然としているが、要はその都市の魅力あるイメージを定着させることである。上位10位の都市のうち札幌市や横浜市などを除く中小規模の都市を見てみるとそれがはつきりしていることが分かる。函館市は函館山からの夜景、小樽市は小樽運河と倉庫群、富良野市はラベンダー畑、金沢市は兼六園、屋久島町は屋久杉といった感じである。行ったことがなくても都市の名前を聞くだけでそのイメージが想起される。知らないものよりも知っているものに魅力を感じやすいと考えると、まずは知ってもらうこと、それも端的に「この街はこれ」というイメージづくりとその発信が重要だろう。

外部からの評価が高い東北各県

都道府県の「ブランド力」ということでは、博報堂が違った視点で調査・分析した結果を今年5月に公表している。「属・ブランド力調査」と称するものである。同社では、魅力的なブランドづくりに必要なのは「志」、「形」、「属」の3つの要素であるとして、その観点から地域社会のブランドを支援するとして、同社によれば、「属」とは同社によれば、「ブランドのもとに集まる仲間、ブランドを応援するサポーターやコミュニティ」のことである。

「属・ブランド力調査」では、その定義に則り、「自分の都道府県には、自分の都道府県を愛している人が多いと思うか」といった5つの質問に対する回答結果から各都道府県における「属」の度合いを明らかにすると共に、県内に住む人の評価(内部評価)と県外に住む人の評価(外部評価)をそれぞれ集計して比較している。

その結果を見ると、東北各県はいずれも「内部評価」よりも「外部評価」が高い。つまり、その都道府県の「ブランド」について、住んでいる人の評価よりも外から見た人の評価が高い。特に、肯定的な回答をした人の割合が外部評価と内部評価とでも倍近くの差に上っており、この両県ではとりわけ内部評価の低さが際立っている。東北の他の4県もそれほどではないが概ね似たような傾向である。

この結果についてはもちろん、東北人に特によく見られる「謙譲の美德」の為せる業と見ることもできる。しかし、そのように「自分たちのよさ」について控え目に見えていくうちに「暗示効果」で本当によさが見えなくなってしまうのは本末転倒である。

同調査で肯定的な評価する人の割合が最も高かったのは、内部評価、外部評価とも沖縄県であった。沖縄県の人たちは自分たちの県のことを極めて好意的に捉えている。

幸い、東北各県は好意的な外部評価の割合が極めて高い。外部評価が最も高い沖縄県の次は北海道、京都府、大阪府と続くが、その次は宮城県、青森県で、さらに長野県を挟んで秋田県、岩手県、山形県の順である。原発事故の影響か、福島県はそこから6県挟んだ次に位置するが、それでも全体の中での外部評価の順位は高い。東北は外部から極めてよく見られているのである。まずこのことを

「内部」にいる我々がしっかりと認識しておくことが必要である。

「東北は一つ」を観光から

9月25〜28日に東京で、「ツーリズムEXPOジャパン」が開催された。これは、従来の「旅フェア」と「JATA旅博」という二つの観光イベントが統合された、「日本全国、世界各国の旅行情報が体験できる」を謳った世界最大級の旅行見本市である。

このイベントには東北各県も出展する。これまでは各県個別に観光PRをするのが通例だったが、今回のこのツーリズムEXPOジャパンでは、東北観光推進機構が音頭を取って「東北はひとつ」をテーマに、青森、秋田、宮城、山形の4県と仙台市が合同で、東北の自然、歴史、暮らしを紹介する共同ブースを設けた。その近くに岩手と福島のブースも配置された。

こうした形で、東北が一体となって観光PRをすることのメリットは大きい。6県合わせて北海道に匹敵する面積のある東北地方のスケールメリットを活かせる他、6県の中で県境を超えて相互に関連し合う観光資源を結んだツアーなどもプランニングできる。

首都圏の百貨店などで行われる物産展を見ても、北海道物産展の人気は断トツだが、6県の物産を集めた

東北物産展の人気もそれに次いで高いと聞く。個別の県のブランド力を高めることも大事だが、それ以上に6県が一つとなって「東北ブランド」の下で観光振興を図ることで、1つひとつの県でできること以上のムーブメントを起こせる可能性があるのである。

東武百貨店で「カリスマバイヤー」として北海道物産展を売上日本一に仕立てた人物として知られる内田勝規氏は、沖縄物産展に代えて「奄美の観光と物産展」を開催した理由を問われて、「人口では到底沖縄に及びませんが、奄美には独特の歴史・文化があり、や文化を取り上げるところに、物産展を行う意義があると考えていました。なぜなら物産展とは、単に物産品というモノを売る場ではなく、地元で作る人たちの『心』(歴史や文化)を包んで売る場だからです。売り場の販売員は、そういう『物語』をお客様に話して欲しいわけです」と話している。そのような「独特の歴史・文化」や「物語」は、東北にも間違いなくある。それをこれまでのように6県毎に細切れにして出すのではなく、一体のものとして出すことが今、必要なのだと思う。

「東北の魅力は人だと思おう。」

やや旧聞に属するが、山形県観光振興課と荘銀総合研究所がまとめた平成19年度の顧客満足度調査の報告書がある。その中には山形県内に宿泊した人に聞いた「山形県を訪れて感じた各項目の評価」がある。それを見ると、「自然や風景」「温泉」「食べ物」に次いで満足度が高かったのは「地元人の親切さ」であった。

これはあくまで山形県における調査結果であるが、十中八九、東北の他の5県についても同様の結果が得られるであろうと思う。東北の魅力というのはまさにここにあるのだと思う。「お・も・て・な・し」が流行語になる以前から、東北には他人に親切にすることが当たり前に根付いていた。24号のこの欄で私が体験した2、3の例を挙げたが、そうした話ごく普通にあるのが東北の強みだと思おう。

今年、「第62回日本観光ポスターコンクール」で審査員特別賞を受賞したポスターがある。「東北の魅力は人だと思おう。」という作品名、震災からの復興を指す人たを描いた一連のポスター。東北の学生のプロジェクト「action × tohoku」の活動の集大成とこのことである。「東北が世界に誇れるものとは?」「東北だけにしかない魅力とは?」の問いにたどり着いた答えがこれ、「東北の魅力とは人だと思おう。」だったのである。

私も全く同様に思う。先に挙げた「地域ブランド調査2014」では、岩手県、宮城県、福島県の「観光意欲度」の経年比較についても触れている。それによると震災前の宮城県と福島県の観光意欲度は震災のあつた2011年に大きく落ち込み、翌2012年から2014年に掛けて回復し、2014年はかなり2010年の水準に近づいたという結果であった。

一方の岩手県は震災のあつた2011年にもほとんど観光意欲度が落ち込まなかった。これは平泉の文化遺産の世界遺産への登録が奏功したものと考えられる。しかし、逆にその後2013、2014年と同県の観光意欲度は微減傾向となっており、見方によっては「世界遺産効果」が薄らいできたとも言えそうである。

東北にはもちろん、豊かな自然、その恵みとしての豊かな食文化、名湯秘湯がひしめく温泉、独自の歴史・文化など、さまざまな魅力があるが、それらに増して魅力ある「人」に焦点を当てた情報発信もこれから特に力を入れていくべきである。それは、観光振興という枠を超えてきつと、これからの地域コミュニティ活性化にもつながっていくことと思う。

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

◆◆◆

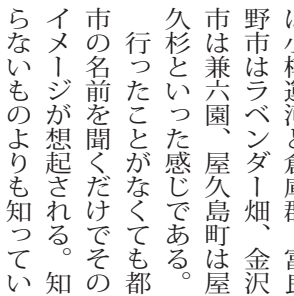
◆◆◆

執筆者紹介

大友浩平
(おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagmasi/



Facebook
https://www.facebook.com/kouheiotoomo



Formal text block, likely a bio or contact information.

Formal text block, likely a bio or contact information.

Formal text block, likely a bio or contact information.

Formal text block, likely a bio or contact information.

Formal text block, likely a bio or contact information.

Formal text block, likely a bio or contact information.

連載
むかしばなし

芭蕉のむかしばなし

第十七話
女王への刺客



奥羽越後現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

「西公園」の七百年前の姿である林を、藤原泰衡と名乗る男に案内され奥に進むと、広瀬川を崖下に臨む茅葺小屋があつて、その前に十名程の武者姿の男達が休んでいるように見えた。しかしその中に見覚えのある人影が見えて、今純三は思わず声を上げた。「あれ、祝魚君ではないか。」

「それで、昭和の時代にはと詰め寄るばかりである。とにかく、祝魚にとつては昭和三年の仙台小田原遊廓に売られた女友達が第一の問題なのだ。」
「まず、六地点のうち半分は制覇した。ここからの二地点が最も厄介なんだ。」
今純三が状況をさらりと解説する。
「あの・・草庵におられるのは、もしや」
芭蕉が茅葺小屋を注視する。泰衡が入り口に歩み寄り、咳払いをしてみせると、中からうら若い女のものらしき凛とした声が届いた。ただ、意味は聞き取れなかったが。

「勇気な娘さんが、体調を崩されて国分寺で休まれています。」
喜善、特に慌てるでもなく、そうですか、と答えました。そして祝魚少年に対して、若の救出に尽力してくれた事を感謝した。しかし少年の方は、
「それで、昭和の時代にはと詰め寄るばかりである。とにかく、祝魚にとつては昭和三年の仙台小田原遊廓に売られた女友達が第一の問題なのだ。」
「まず、六地点のうち半分は制覇した。ここからの二地点が最も厄介なんだ。」
今純三が状況をさらりと解説する。
「あの・・草庵におられるのは、もしや」
芭蕉が茅葺小屋を注視する。泰衡が入り口に歩み寄り、咳払いをしてみせると、中からうら若い女のものらしき凛とした声が届いた。ただ、意味は聞き取れなかったが。

「南の・・海中の国??」
芭蕉が眼前に立つ少女の瞳を見上げる。少女の眼は微動もせず、不気味な程に冷徹に見える。
「そこにある巻物にも、文字の連なりが。トヨさんは、事情を察しておられる。」
「一体、この娘は何者なのか。」
長里国八郎が問う。
「今、京におはす帝の以前にも、この国土を広く治めた女がおられたのだが、信じてもらえようか?」
泰衡の言葉に、居合わせた面々が目を剥いた。彼らの背中から、泉三郎忠衛が高圧的な声をかける。
「そう、この方は常に朝廷に追われ続けてこられた。我ら蝦夷とは一蓮托生のともがら。ゆめゆめ内裏の手に触れさせじ。」
一体、この世界では何が起ころうとしているのだらうか? 長里は眩暈を覚えた。勿論、自分たちの生きてきた世界と連なつた、まさに同じ場所である訳だが・・。

「御館様・貴方は戦わずして平泉、奥羽の国を滅ぼした、と後世に伝えられております。一体、貴方様の御本意はどこにあるのですか。」
「某は、始めから頼朝にこの国を差し出す所存でござつた。」
泰衡は静かに言った。
「もはや時代はその流れになつていて、と感じられた故。亡き父・秀衡が陸奥守に任じられた時、蝦夷は終わった、と某は感じた。そもそも・・」
一旦、言葉を濁す。
「平泉の金色堂に、父祖三代が揃つた。それで、この国は完結した、と確信したのだ。」
「どういう事です・・」
ふふ・・と微笑した泰衡はそれには答えない。
「この国は、長き年月に渡る奥羽での戦の膨大な死者を悼み、再び戦をせぬ誓いで立つた国。某は国主として、戦を避けた末の平泉を見届けたかった。もつとも、兄・国衡はあくまでも武家として頼朝を迎える意志を曲げなかつたが・・蝦夷の国の境を永久に示すのだと言つてな。某も止める事はできなかつた。」
「戦わぬ武士など、あるものか。」
忠衛が、口を挟んでくる。
「伊達の兄者は、勘の稀なる狂生ぞ。周りが止めるも聞かず百姓の中に入って野良仕事するのが日課、威厳も何もなし。そげな酔狂に大將軍が務まるか。父はこれぞ平泉の主、などと仰せだつたが、わしには意味がわからなかつた。」
「お慎みなさいませ!」
泰衡の臣、五郎六郎が堪

「忠衛殿が害されておられぬ、という事は・・」
長里、独り言のように呟く。そこで既に、昭和まで七百年語られてきた「正史」と違ふ事実が明らかかなのだ。
「義経公は・・どうされたのです。」
「ふん、九郎様は伊達兄に同調されてしまったのだ。」
軽口で明かしてしまふ忠衛に、周りは慌てたようだが、無駄だつた。
「今頃、糠部(現在の八戸)の境を永く示すのだと言つてな。某も止める事はできなかつた。」
「戦わぬ武士など、あるものか。」
忠衛が、口を挟んでくる。
「伊達の兄者は、勘の稀なる狂生ぞ。周りが止めるも聞かず百姓の中に入って野良仕事するのが日課、威厳も何もなし。そげな酔狂に大將軍が務まるか。父はこれぞ平泉の主、などと仰せだつたが、わしには意味がわからなかつた。」
「お慎みなさいませ!」
泰衡の臣、五郎六郎が堪

「九郎様の影武者が病死したので、その首を身代わりに使つたら今しかない、などと云つてな。」
驚くべき意外な内情であつた。
「もう、その辺で良いであらう・・さて、方々のお望みの件だが。」
「それはならぬ!」
泰衡を、忠衛が強く押し留める。
「こ奴らの結界とやらをこの地に張らせるなど、言語道断。俺が張つた、防衛の網が台無しになるではないか。」
「だから、トヨさんに相談に参つたのだ。」
「相談など、できる状態か! 阿古耶がまたいつ、トヨ殿を手に掛けるかもわからぬのだ。」
「あこや・とは?」
「喜善が口を挟んだ。」
「貴殿は知つておくべきだな。まさに貴殿の娘御が、阿古耶をこの世に復活させたのだから。」
「なんと・・」
泰衡が説明を引き継ぐ。
「阿古耶は、阿弖流爲の時代より昔に朝廷から遣わされた京藤原の巫女だ・・トヨさんの抹殺のために。」
喜善ならずとも、驚愕の話であつた。
「千年の封印を施して、出羽・千歳山に幽閉した筈だつたが・・おそらく若どののお力があまりにお強い上に、阿古耶姫に極めて近い双生児の如き感応性を持つておられる。」
「娘御はいずれに。とにかく、阿古耶との交信を絶たせねばならぬ。」
*
若はその頃、陸奥国分寺

「大繩は異界との境でござる。川の竜神の力にて霊威を得、空のみならず時の間の行き来をも可能とする。」
先に馬を降りた高衡が、若に手を差し伸べる。
「もうすぐ、ここが戦場になるのですね・・」
高衡は少女に言った。
「しかし、奥州軍は負けるのですよ。」
こんな事は言つてはならないと思ふのだが、時代は違ふと同じ東北の人間に、無駄な死に方はしてほしくないのだつた。
「そうです。兄・泰衡は無益な戦と知り最小限の出兵で、策を打ち出しました。この名取川を境に、結界を張つて敵軍を魔界へ陥れるという天下の奇策であります。」
「魔界・・!?」
「信じられぬでしょう・・高衡、何と馬を広瀬川の川面へと進める。川の水深は決して浅くないが、若者はずんずん進んでいく。
「大繩が見えるか。」
若は川の水面近くに、流れに沿つて太い繩が横たわつているのを見た。
「繩を跨げよ、安積丸」
高衡が命じると、馬は前脚を水上に上げた。すると、次の瞬間若の目の前の風景がふつと変わった。
そこはもはや水音は消えて森に包まれた小山が迫り、何人も武者が集まり行き交う、砦を中心とした一大軍事施設であつた。
「い、今のは・・」

「大繩は異界との境でござる。川の竜神の力にて霊威を得、空のみならず時の間の行き来をも可能とする。」
先に馬を降りた高衡が、若に手を差し伸べる。
「もうすぐ、ここが戦場になるのですね・・」
高衡は少女に言った。
「しかし、奥州軍は負けるのですよ。」
こんな事は言つてはならないと思ふのだが、時代は違ふと同じ東北の人間に、無駄な死に方はしてほしくないのだつた。
「そうです。兄・泰衡は無益な戦と知り最小限の出兵で、策を打ち出しました。この名取川を境に、結界を張つて敵軍を魔界へ陥れるという天下の奇策であります。」
「魔界・・!?」
「信じられぬでしょう・・高衡、何と馬を広瀬川の川面へと進める。川の水深は決して浅くないが、若者はずんずん進んでいく。
「大繩が見えるか。」
若は川の水面近くに、流れに沿つて太い繩が横たわつているのを見た。
「繩を跨げよ、安積丸」
高衡が命じると、馬は前脚を水上に上げた。すると、次の瞬間若の目の前の風景がふつと変わった。
そこはもはや水音は消えて森に包まれた小山が迫り、何人も武者が集まり行き交う、砦を中心とした一大軍事施設であつた。
「い、今のは・・」

シリーズ 遠野の自然 「遠野の秋」 遠野 1000 景より



早池峰神社観月祭 3

遠野の秋は何と云っても祭りである。祭り抜きに遠野の秋は語れない。
また、遠野の祭りとひと括りにするが、行列、御輿、しし踊り、南部ばやし、さんさ踊り、手踊り、神楽、流鏝馬もあるという具合に

さまざまに分野に亘る。そして祭りの各分野には遠野市内各地から多くの団体が参加する。そのため、全分野、全団体となると、ものすごい数となる。したがって祭りに一回くらい参加するだけではとても覚えきれないのだ。

◇ この遠野の祭りを筆者の勝手な区分けで二つに大別すると、日中の祭りと夜の祭りに分けられるのではないかとと思う。その区分けの理由は、日中に見る祭りと夜の祭りとではまったく別物としか思えないほど印象が異なるからである。そして夜の祭りは必見である。明るい日差しの中に見

る祭りは華やかであり、また至極健康的である。穏やかな自然の恵みのありがたみを感じ、秋の実りに感謝しながら、祭りに素直な喜びを爆発させるという姿がそこにはある。

しかし夜になると様相が一変する。夜の暗闇の奥に、日中の祭りに感じる穏やかな面だけではない、何か人間を圧倒するような、また不条理ともいえる荒ぶる自然のエネルギーの気配を感じる。あるいは人知をはるかに超越した神さまのパワーが湧き出てくるような気配を感じるのである。一度夜の遠野祭りを体験すれば、筆者の言わんとするところをお分かりいただけることと思う。

◇ 最初の写真は、暗闇のなかの虎舞。闇を疾走する虎に見える。すごいショットである。
「西の空」は妖しい。妖怪が出現する夜の時間はじまりを予告しているように見える。

現代では月を見る習慣は大分薄れてきたが、闇のなかの月は、それだけで何か身中にざわざわとした感覚を呼ぶ。その月を見ながらの祭りもしかりである。
昼に見る神楽やしし踊りとは別物の神楽としし踊りがそこに展開されている。最後は妖しい灯籠。これで舞台は揃った。



西の空



観月祭



早池峰神社観月祭 4



早池峰神社観月祭 2



夜の灯籠



早池峰神社観月祭 5

長谷寺(長野市)の岡澤住職のお話

この震災であらためて豊かさとは何かを問う
そして、本当の豊かさを求める新たなモデルを東北の人たちの手によって築き上げて欲しいとの願いを語る
震災現場では想像を絶する体験ばかりで、ご本尊探し
の話、猫に命を救われた話もあり
震災は『細く長く覚えておく』ことも提唱される

現在はブドウで有名な甲州市の大善寺逗留中

MONKフォーラム代表 長谷川稔氏寄稿

笑い仏さん

福島への行脚

第十六回

福島県を目指す「笑い仏」は、現在山梨県甲州市の大善寺に逗留しています。本堂の薬師堂は国宝にも指定されています。仏教とともに伝わったとされる甲州ぶどう発祥の地としても知られます。これからはぶどうを使ったワインがおいしい季節です。お立ち寄りの際は一杯どうでしょうか？

今回のコラムでは長野市・長谷寺の岡澤住職に東北との関わりについてのお話をうかがいました。住職は、東日本大震災から一カ月後に被災地に足を運びました。陸路がようやく使えるようになったときで、まだまだ被害のあとが残っているさなかでした。そのときの経験が、今でも法要で檀家さんにお伝えされています。ここからは岡澤住職のお話です。

東北は長野と同じく、東京から離れたところにあります。水も食べ物も豊かで、空気もきれいですね。でも、東北は今、原発を受け入れたことで苦しんでいます。東京発のシステムを受け入れて、言葉はよくないですが、豊かさを失ってしまった。でも、起こってしまったことは仕方ありません。これを教訓にして、本



長谷寺の岡澤住職と笑い仏さん

がいがみ合っています。本堂の豊かさって何でしょうか。東北は長野と同じく、東京から離れたところにあります。水も食べ物も豊かで、空気もきれいですね。でも、東北は今、原発を受け入れたことで苦しんでいます。東京発のシステムを受け入れて、言葉はよくないですが、豊かさを失ってしまった。でも、起こってしまったことは仕方ありません。これを教訓にして、本

当の豊かさを求める新たなモデルを、東北の人たちの手によって築き上げて欲しいと願っております。震災の現場では、想像を絶するようなことばかりでした。予期せぬこともたびたび起こりました。お坊さんとしてできることは、お経を読むことぐらいでしたが、火葬場に行っても、法的な制限もあり法要を営むことができないことがよくありました。でも、遺族の方は悲しんでおられる。やるしかないのです。現場判断です。遺族の思いを受け止めて、心をこめて、お祈りをさせて頂きました。心打たれることもありました。岩手県の陸前高田でのお話です。住民のかたは、お墓がある高台に非難されて、助かった。彼らは自分の周りが一段落すると、お寺に来て作業していました。「ご本尊を探しているんです。」

お寺が流されたので、ご本尊様も一緒に流されてしまったんですね。まだ町も大変な時期ですよ。でも、彼らにとっては、それこそが大事なことだったので、お寺の存在を改めて考えさせられた次第です。こういう被害に遭われたからこそ、心のよりどころの必要性を感じました。

その方のお姉さんが、津波で家が流されて、たった一人で取り残されたのだそうです。三月の寒い時期に動けなかったのですが、九死に一生を得たのです。それも、猫が助けてくれたのです。冷えていく体をずっと温めてくれた。それで助けが来て、「おい」として声が出て、どうにか命を取りとめた。生死の境は、何がどう関わってくるのか分かりません。『生かされている』のが命なのだろうか。

『命』というものの奇跡についても知らされました。大船渡でお会いした大道芸人のかたのお話です。

仏教に関わる者として、不思議というほかありません。東北の震災を『ずっと覚えていこう』と言うのは無理かもしれませんが、でも、『細く長く覚えておく』ということならば、皆にできるかもしれませんね。

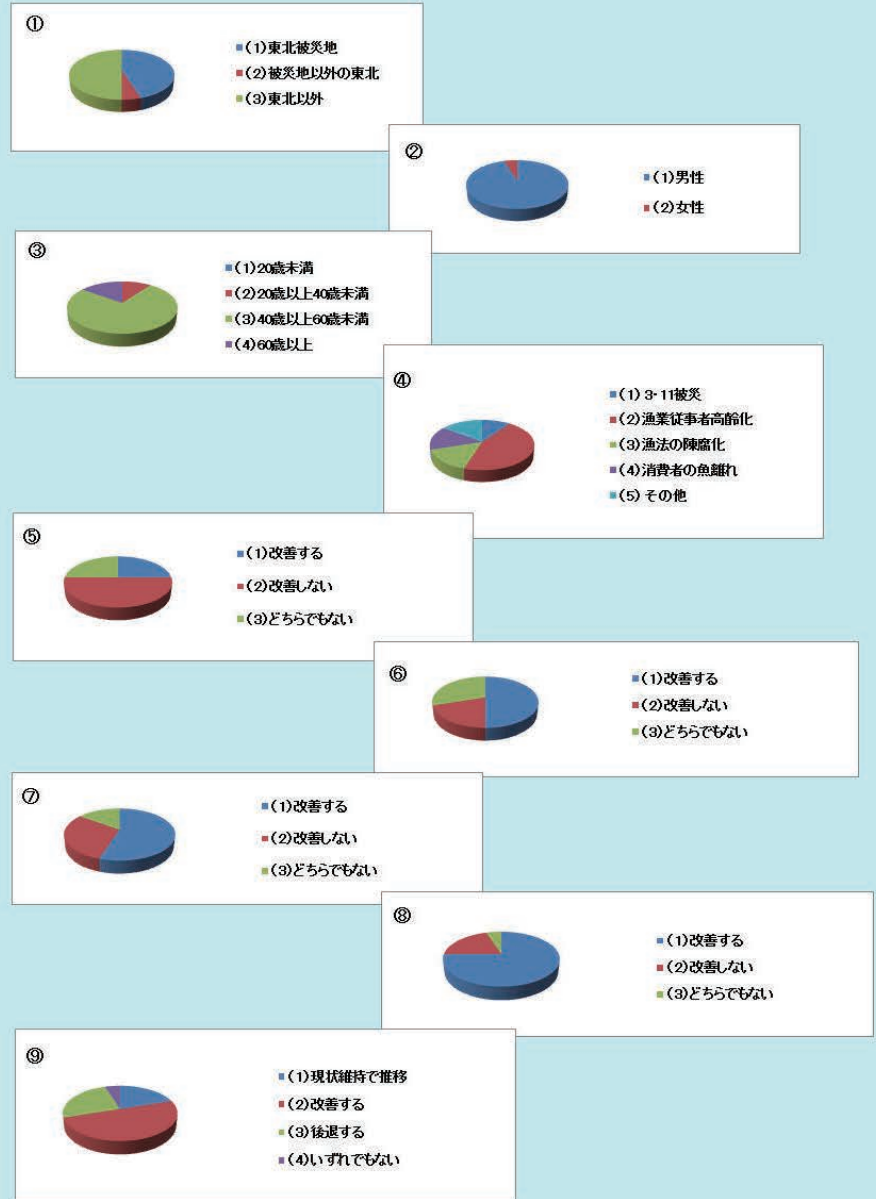


現在逗留中の大善寺

最初の話に戻りますと、本当の豊かさをじっくり考えていけば、果たしてこういう結果になったのだろうか。以上が岡澤住職のお話でした。「笑い仏」は東北とご縁をつなぎながら、東に向かっています。(MONKフォーラム 共同代表 長谷川 稔)

第28号 ネットアンケート集計結果 三陸水産業の再興について

| No. | 質問と選択肢 | 回答数 |
|------------------------|----------------|-----|
| ① 住所 | (1) 東北被災地 | 9 |
| | (2) 被災地以外の東北 | 1 |
| | (3) 東北以外 | 10 |
| ② 性別 | (1) 男性 | 19 |
| | (2) 女性 | 1 |
| ③ 年齢 | (1) 20歳未満 | 0 |
| | (2) 20歳以上40歳未満 | 2 |
| | (3) 40歳以上60歳未満 | 15 |
| | (4) 60歳以上 | 3 |
| ④ 三陸水産業再興の最大の課題 | (1) 3・11被災 | 2 |
| | (2) 漁業従事者高齢化 | 9 |
| | (3) 漁法の陳腐化 | 3 |
| | (4) 消費者の魚離れ | 3 |
| | (5) その他 | 3 |
| ⑤ 漁業従事者高齢化は改善するか? | (1) 改善する | 5 |
| | (2) 改善しない | 10 |
| | (3) どちらでもない | 5 |
| ⑥ 漁法の陳腐化は改善するか? | (1) 改善する | 10 |
| | (2) 改善しない | 4 |
| | (3) どちらでもない | 6 |
| ⑦ 消費者の魚離れは改善するか? | (1) 改善する | 11 |
| | (2) 改善しない | 6 |
| | (3) どちらでもない | 3 |
| ⑧ 三陸水産業は3・11被災から改善するか? | (1) 改善する | 15 |
| | (2) 改善しない | 4 |
| | (3) どちらでもない | 1 |
| ⑨ 三陸水産業の未来について | (1) 現状維持で推移 | 4 |
| | (2) 改善する | 10 |
| | (3) 後退する | 5 |
| | (4) いずれでもない | 1 |



今回は「三陸水産業の再興について」でした。三陸水産業の低迷は大震災発生以前から続いているのではないかと、復興というより再興するというのが正確ではないのかと常々思っていたため、ぜひみなさんに聞いてみたかったのです。回答者は20名。

「三陸水産業再興の最大の課題」は「漁業従事者高齢化」が45%、「漁法の陳腐化」と「消費者の魚離れ」がともに15%、「3・11被災」はわずか10%。高齢化問題が最大の課題という結果です。「漁業従事者高齢化は改善するか?」は、「改善しない」が50%、「改善する」が25%と悲観的です。「漁法の陳腐化は改善するか?」は「改善する」が50%、「改善しない」が50%、「どちらでもない」が20%と道はあるという結果でした。「消費者の魚離れは改善するか?」は「改善する」が55%、「改善しない」が30%でした。「三陸水産業は3・11被災から改善するか?」は「改善する」が75%、「改善しない」が20%、やはり最大の課題は別にあるとの結果でした。「三陸水産業の未来について」は「改善する」が50%、「後退する」が25%、「現状維持で推移」が20%となりました。

厳しい結果でありながらも、未来に期待をしたいとの回答であったと思います。今後もこのアンケートを定期的に続けていきたいと思います。

編集後記

以前東北の独立と関連して何度か取り上げたスコットランド独立のことうであるが、9月18日に行われたスコットランドの住民投票の結果を注目していたが、がっかりした人や組織、ほっと胸をなでおろした人や組織があったはずで、悲喜こももであったことだろう。筆者としては、賢明な選択であったと思う。

北方油田の収益だけで独立後の経済運営を維持していくのはなかなか難しいと思う。また、併合後に縮小され続けてきた住民自治ももともともと拡大していかねばならないし、いま独立の選択は可能だが、その後あらゆる課題が一旦に押し寄せて、あわてふためくという判断はきつと後悔するだろう。

ここはしばらく住民自治を徐々に拡大しつつ、機が熟すのを待てば良い。もう300年も待ったのであり、この先十年や二十年待ったところで、大して状況が変わる訳でもあるまい。

これをスコットランドの文化をますます再興させていく機運につなげていけば良い。独立運動の核心はまさにそこにあると思うからである。形の独立ではなく、中身の独立が大事である。それは東北にも言えることだと思ふ。文化が大事だ。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

プロジェクト募集要領

- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由 (プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ ✕切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

連絡先/企画提出先

(郵送) 〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1
ホームタウン宮前2-2
電子タブロイド新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)

たくさんのご提案をお待ちしています